

サービス推進室では、医療安全に関する情報を収集し、看護現場で役立つポイント等を付加して提供しています。それぞれの現場に応じた点検ツールとしてお役立てください。

No.1

輸液ポンプ・シリンジポンプの事例から学びましょう。

公益財団法人 日本医療機能評価機構より、第 61 回報告書¹⁾(以下、「報告書」という。)が公表されました(2020 年 1 月から 3 月までの報告事例を対象とした分析結果を掲載)。そして、分析テーマの一つとして輸液ポンプ・シリンジポンプが取り上げられています。

報告書によると、2016 年 1 月から 2020 年 3 月までのシリンジポンプの設定に関連した事例が 1 件ありました。

<p>シリンジポンプの液晶画面が暗くなってしまったため、シリンジポンプの前まで行かず通路から液晶画面を見た。4 と 1 の数字は確認できたが、小数点は見えなかった。声出し確認はしたが、指差し確認はしなかった。30 分後にアラームが鳴り訪室すると点滴は終了していた。</p>	<p>小数点を確認し、小数点がない場合でも 41 はあり、そのため小数点があると思っただけだった。</p>	<p>確認し、小数点がない場合でも 41 はあり、そのため小数点があると思っただけだった。確認し、小数点がない場合でも 41 はあり、そのため小数点があると思っただけだった。確認し、小数点がない場合でも 41 はあり、そのため小数点があると思っただけだった。</p>
--	---	---

公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故情報収集等事業 第 61 回報告書 より引用

報告書には、今回ご紹介した事例以外にも輸液ポンプ使用時に、桁を間違ったり、100 の位に誤って入力して高カロリー輸液などが急速に投与されたりした事例や輸液ポンプの予定